

新東名(伊勢原)で火入れ式

ICT等新技术を積極的活用 大成ロテック

中日本高速道路発注の「新東名高速道路伊勢原北IC」秦野IC間舗装工事」で施工を担当する大成ロテックは16日、神奈川県秦野市の現地です

ファイナルプラントの火入れ式を行った。写真。上村信一(中日本高速道路東京支社秦野工務事務所長)、高橋昌和(秦野市長)、



高山松太郎(伊勢原市長)、圓角隆(大成ロテック代表取締役専務執行役員生産技術本部長)ら55人が出席した。

式典後の挨拶で上村所長は、施工に当たる大成ロテックに対して「技術者として、今後も最大限の智慧と工夫を発揮して新東名高速道路に最新の技術を投入して欲しい」と呼び掛けた。来賓の高橋秦野市長は、「この火入れ式が、新東名高速道路の完成にむけて最終段階に入ったと実感しており、今後、秦野市と伊勢原市が連携して地域の発展にむけて取り組んでい

きたい」と述べた。

また、圓角本部長は「地域の発展と高品質な高速道路を安全に建設するため、長年培ってきた技術力と施工ノウハウを用いるとともにICTなどの新技術も積極的に活用し、現場・本社が一体となり万全の体制で臨み、工事を無事故無災害で完成させる」と述べた。

工事の総延長は2万6748mで、設置したプラントは1時間当たり180トの製造能力を有し、同工事で使用するアスファルト合材8万7000トの製造を担う。開通は21年度内を目標としており、今後、舗装および道路施設の工事が本格化していく。